

# 平成13年度のり漁期の海況について(まとめ)

今月半ばに今年度ののり養殖が終了しました。そこで漁期を通して水温，栄養塩類量，沖合水の波及状況について整理してみました。

## 1. 水温

図は各漁場の水温の日変化，平年値(過去10カ年平均)，平年値の差です。10月以降各漁場ともほぼ平年並みで水温が低下しました。年明け後内房海域特に湊ベタで平年より低めで経過したのが特徴的です。全般的にみれば大きな変動のない水温経過だったと思われます。

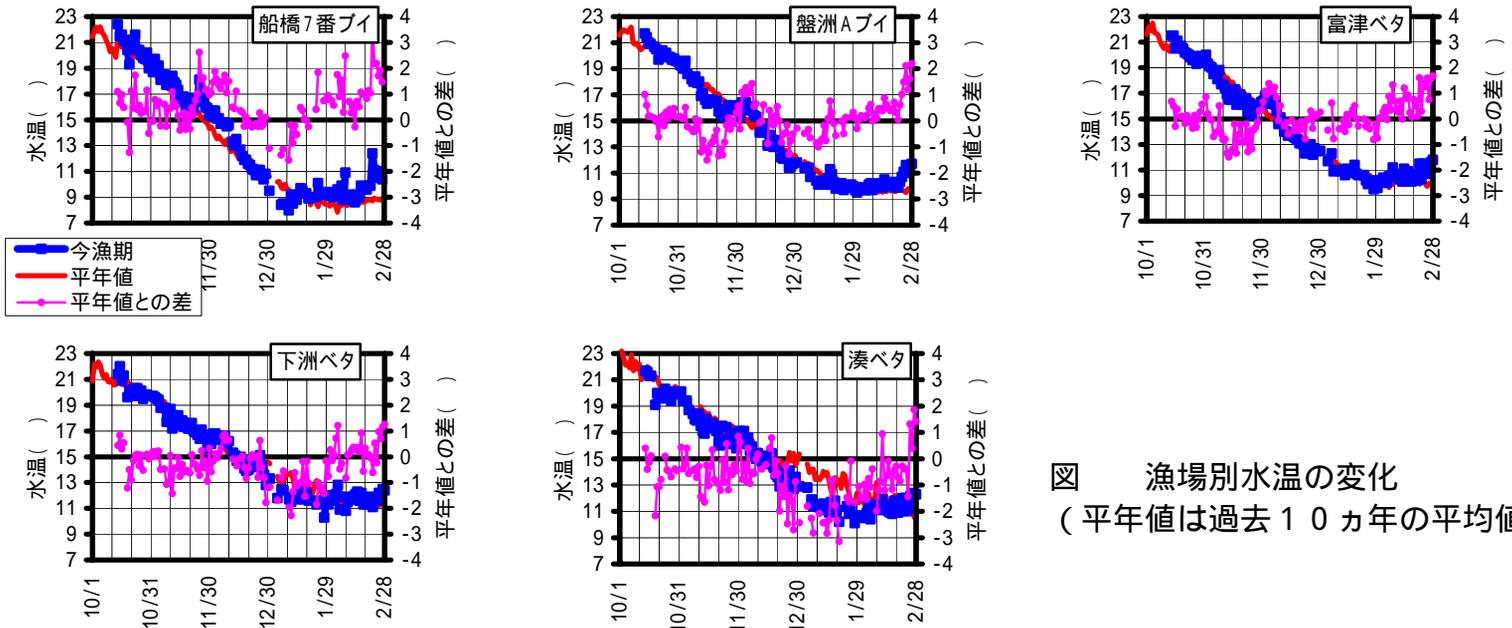


図 漁場別水温の変化  
(平年値は過去10カ年の平均値)

## 2. 栄養塩類量の変化

図は各漁場の栄養塩類量の変化です。は溶存無機態窒素(DIN)，はリン酸態リン(PO4-P)です。右下の盤洲Aブイにはプランクトン量(赤潮)の目安となるクロロフィルa量も加えました。

今漁期は9月末，10月後半，11月後半と2月後半以降の4回栄養塩類量が減少しました。東京湾ではDINが100 μg/L，PO4-Pが12.5 μg/Lを下回るとのりの色落ちになるといわれていますが，いずれもPO4-Pがのりの生育の制限要因になっているようです。これは珪藻赤潮によるものでクロロフィルa量の変化とよく対応していました。

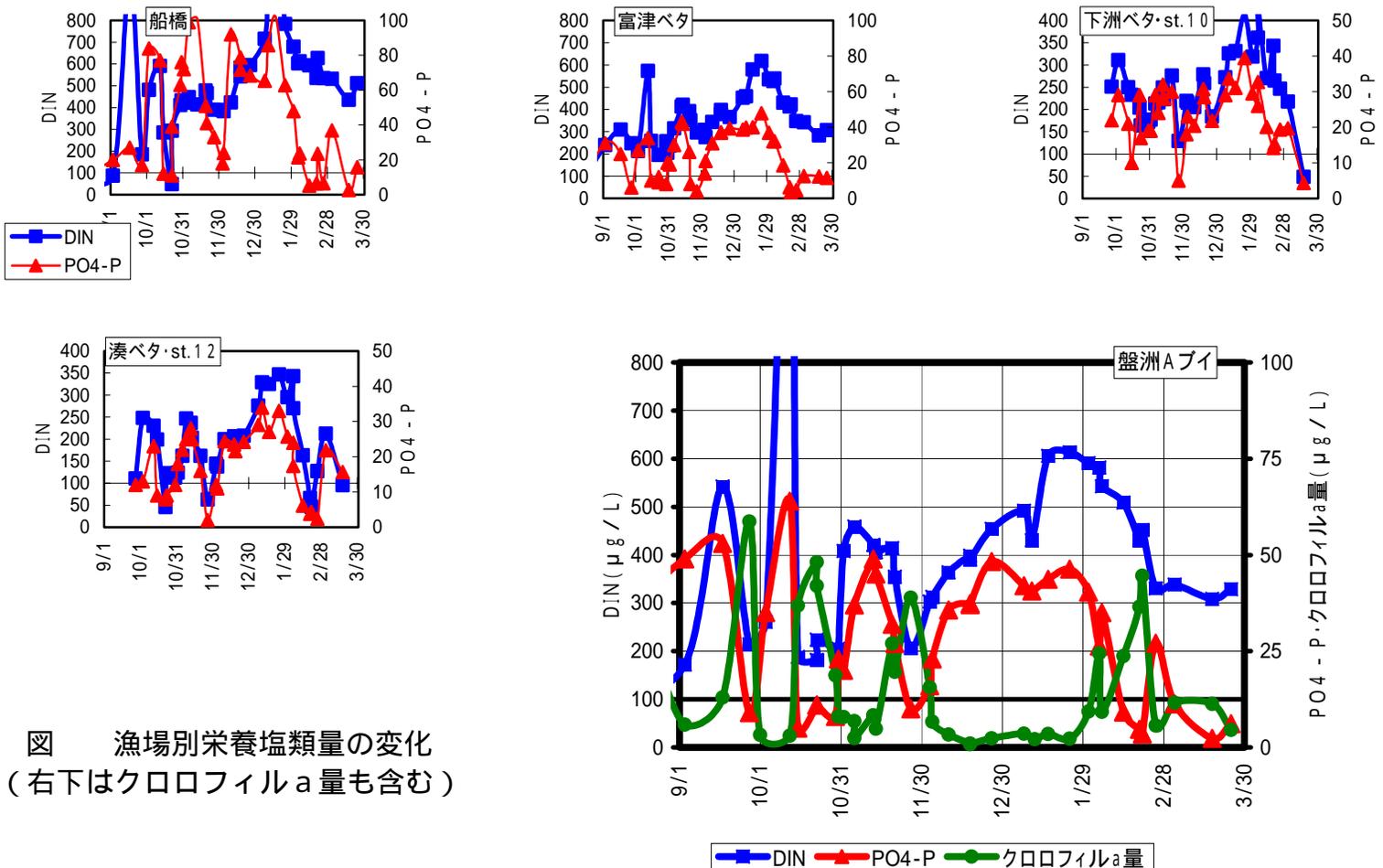


図 漁場別栄養塩類量の変化  
(右下はクロロフィルa量も含む)

### 3. 沖合水の波及について

のり漁期中黒潮系沖合水が東京湾口部に浸入すると、内房海域では水温、塩分の急上昇、栄養塩類の減少により養殖に大きな影響を与えるため、とくに注意して追跡しています。

この現象を把握する手段として、内湾の潮位の上昇を目安にしています。

今漁期は10月前半まで潮位が高くやや沖合水への注意が必要でしたが、その後は大きな上昇がみられませんでした。昨年、一昨年のような目立った沖合水の浸入はなかった漁期でした。このことは内房海域の水温で急上昇がみられなかったことから確認できます。

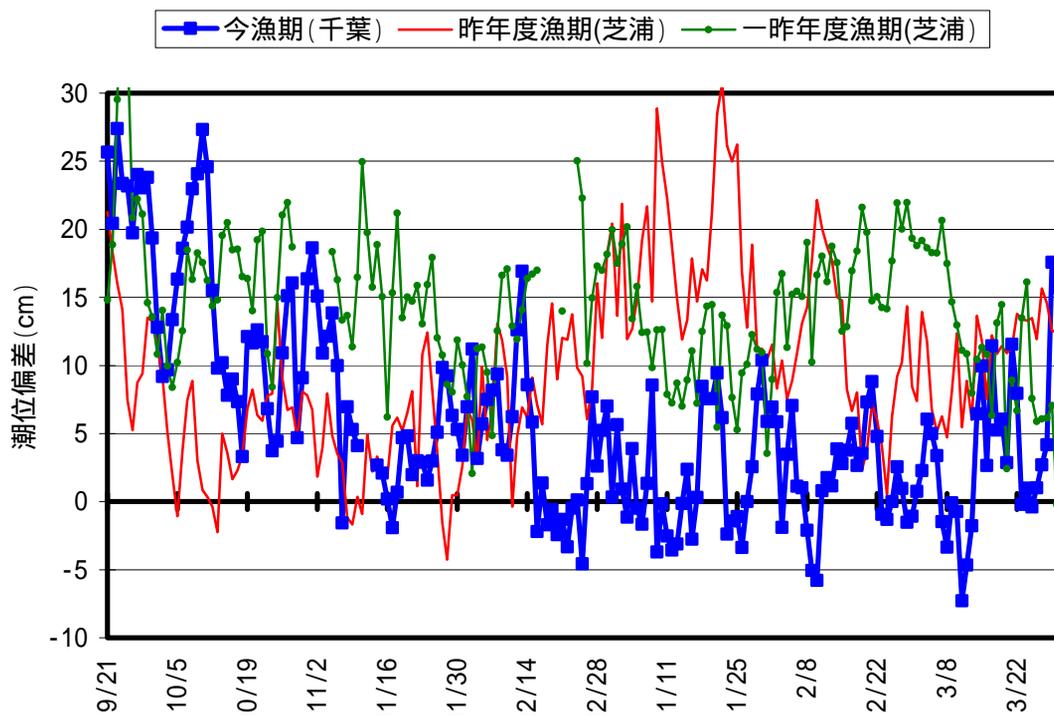


図 内湾の潮位偏差（三管水路部の資料より）

#### のり養殖業による東京湾富栄養化対策への効果

のり養殖業が漁業生産だけではなく、東京湾で問題となっている富栄養化に対して、どれほど貢献しているのか試算してみました。今漁期の千葉県の乾海苔生産枚数5.1億枚から推定すると、窒素105トン、リン10トンを東京湾から取り除いたこととなります。

東京湾への発生負荷量は窒素(T-N)が1日あたり254トン、リン(T-P)が1日あたり21トン(環境庁の算出値1999年)であり、1日分にも満たない量ですが、人為的に海で海苔を生育させ陸上に取り上げる行為をおこなっているのですから十分に価値があると考えます。

千葉県海苔養殖により東京湾から除去される窒素とリンの量

乾海苔の生産枚数	5.1億枚	
乾海苔1枚の重量	3g	
乾海苔の総重量	1,530トン	
乾海苔の窒素含量	6.98%	五訂 日本食品標準成分表のたんぱく質量から試算
乾海苔のリン含量	0.65%	五訂 日本食品標準成分表
窒素除去量(トン)	106.7トン	
リン除去量(トン)	9.9トン	

乾海苔の窒素含量は低く見積もられている可能性があります

#### 今年度も情報の提供をお願いします「東京湾情報ボックス」

東京湾での情報を集めています。ご協力ください。

たとえば

珍しいさかなが捕れた！ こんな時期になんで？ なんだかすごく潮がはやいぞ  
海の色が変 青潮出たよ いつもより水温が高いんじゃない？ など なんでも結構です  
お寄せいただいた情報は本紙で紹介させていただきます よろしくお祈いします

連絡先は 水産研究センター富津研究所 漁場環境研究室まで

0439-65-3071 FAX 0439-65-3072 E-mail futtsu-gk@mz.pref.chiba.jp